

1. 第65回秋期特別総会(つくば)学術集会開催報告

標記総会が開催されましたので、以下の通りご報告いたします。筑波大学を世話機関とし、野口雅之会長のもとで、令和元年11月7日(木)～8日(金)の2日間、つくば国際会議場にて標記総会が開催された。学術研究賞演説(A演説)4題、B演説2題、特別講演2題、シンポジウム3件15題、病理診断特別講演2題、症例報告1題、特別企画1題、教育講演1題、ポスターセッションの発表と討論が行われた。その他、社員総会、理事会、会員懇親会も開催された。また会期後には、コンパニオンミーティング、IAP病理診断講習会等が開かれた。

2. 令和元年度定時社員総会(東京)開催報告

東京総会会期中の令和元年5月10日(金)14:40～16:00、東京国際フォーラム第1会場ホールCにて、標記社員総会が開催されました。今回はその際の「報告事項」を議事録より抜粋してお送りいたします。以下の「協議事項」につきましては、すべて承認となり、会報373号(4月・5月合併号)P1～P9にご報告いたしておりますので、そちらをご参照下さい。

http://pathology.or.jp/side/pdf/KAIHO373_0530.pdf

理事会報告、決定事項については、次号にてお知らせいたします。

出席数: 会場出席者 437名, 委任状出席者数 1,798名,
出席者合計 2,235名

議長: 坂元亨宇 第108回総会会長

報告事項

1. 理事長報告・各種委員会報告

(1) 北川理事長が標記の件につき以下の報告を行った。

- 1) 現在の会員数は4,728名である。正会員は4,078名でうち学術評議員が1,336名、一般会員が2,742名である。
- 2) 倫理委員会報告(横崎宏委員長)
主にJP-AID研究事業(AMED委託事業)関連の研究倫理審査を4件行った。
- 3) COI委員会報告(伊藤雅文委員長)
平成30年度の定時申告については、書式改定等の事務的な事情により遅延しているため、関

係者には今年度と併せて2年分の報告をしていただくこととなっている。

4) JP-AID研究事業報告

2019年度の委託事業を正式に受託した。

5) 欠席の落合理事に代わり、北川理事長が下記委員会の報告を行った。

① 癌取扱い規約委員会報告

領域横断的癌取扱い規約を2019年秋に出版する予定である。

② ガイドライン委員会報告

乳がん、胃がんのHER2検査ガイドライン第2版を2019年夏頃に出版する予定である。

(2) 安井弥副理事長より担当委員会報告があった。

1) 企画委員会報告

① 各種委員会の役割分担と情報共有体制の明確化を進めている。

② 10月28日に「人工知能時代の放射線画像診断・病理診断と専門医のあり方」というシンポジウムを日本放射線学会、日本学術会議と共同開催する。

③ 本年の秋に行われる令和2/3年度役員選挙の日程に関して、新体制の準備期間を十分に確保するため、前回より約1カ月前倒しで実施することを先日の理事会にて承認をいただいた。選挙公示は10月中旬、投票締め切りは11月下旬、第1回新役員会は12月22日に開催する予定となっている。

④ 学術集会の参加費は現在、会員と非会員で同額であるが、今後差別化する方向で検討を行う。

2) 研究委員会報告

JP-AIDの事業報告及び研究計画を確認した。また、外部の研究機関に、研究で収集したデータを提出する際の個人情報除去や匿名加工情報に関する申請報告書の確認を行った。

3) 希少がん病理診断支援検討委員会報告(佐々木毅委員長)

本年度も「希少がん病理診断講習会」を実施する。また、独自に購入したサーバーを利用し、希少がんWSIの問題と解説を含めたeラーニングを会員に向けて公開中である。

- 4) 欠席の落合理事に代わり、安井副理事長が学術委員会の報告を行った。
A 演説の応募が本年度顕著に減少しており、例年 20 件ほどあるものが今回は 8 件、採択数は 4 件であった。秋期特別総会の柱となる A 演説の応募数減少を受け、学術委員会では A 演説、B 演説の在り方について協議した。特に A 演説に関して、学術委員会、理事会、支部会、そして広報を通じて十分に広報し、積極的に応募を奨励することとなった。
- (3) 坂元亨宇常任理事より担当委員会報告があった。
- 1) 財務委員会報告
後ほど協議事項で審議をお願いする。
 - 2) PI 編集委員会報告
近く発表される 2018 年のインパクトファクターは 2.03 という試算が出ており、初めて 2 点台となる予定である。これもひとえに先生方のご協力と感謝申し上げる。
- (4) 森井英一常任理事より担当委員会報告があった。
- 1) 病理専門医制度運営委員会及び口腔病理専門医制度運営委員会（仙波伊知郎委員長）報告
 - ① 研修制度に関して
 - i 2019 年研修プログラムの専攻医採用人数は 117 名、一昨年が 108 名、昨年が 114 名ということで漸増でとなっている。2020 年度の研修プログラムについても、例年同様に専門医機構のシステム上で採用を行う予定。
 - ii シーリングに関しては、病理領域は今年度も対象から外されている。
 - ② 専門医試験に関して
 - i 2019 年度専門医試験は 7 月 27 日、28 日に東京医科歯科大学で昨年同様行われる。現時点での受験の申請者数は医科が 115 名、口腔が 12 名となっており、受験資格審査は後日行われる。研修 3 年目、4 年目の専攻医が同時に受験する 2 年目の年となるが、申請者は予想より少なかった。また、引き続き iPad を用いたバーチャルスライド問題を出題予定である。
 - ii 2020 年度の専門医試験は、東京でオリンピックが開催されるため、関西方面で実施する。会場については神戸大学で開催を予定していたが、受験者数の関係から大阪大学へ変更する。
 - iii 受験に必要な各種講習会については、例年通り開催している。
 - ③ 専門医資格更新関係報告
 - i 2019 年度病理専門医資格更新の認定結果は、日本専門医機構認定病理専門医としては 338 名、日本病理学会病理専門医としては 52 名、未申請の方が 32 名であった。
 - ii 2020 年度の更新は、日本専門医機構への移行期最後の年となる。更新対象者には必要書類の一式を 8 月下旬にお送りする予定である。
- (5) 田中仲裁理事より担当委員会報告があった
- 1) 広報委員会報告
2018 年度末に会員システム上で、初めてとなる学術評議員の更新を実施した。最終的には 98.4% の方が手続きを完了し、非常に高い更新率となった。次回の実施は 2 年後となる。また、今年の秋には役員選挙を会員システム上で実施する。
 - 2) 社会への情報発信委員会報告（森谷卓也委員長）
医学会総会の企画「健康メッセ」に病理学会として体験コーナーを出展した。森谷委員長、伊藤智雄前委員長のご協力と、名古屋大学の先生方のご尽力によるものである。2,590 名以上の小中学生が訪れ大盛況であった。
 - 3) 診療関連死調査に関する委員会報告
 - ① 医療安全調査機構によると、医療事故はこの 3 年間で 1,169 件報告されており、解剖率は司法解剖も含めて 38% ほどである。
 - ② 本学会も協力団体として、今年も機構のセンター調査 8 件に委員派遣を行っている。ご尽力をいただいた先生方には深謝申し上げるとともに、引き続き会員の協力をお願いする。
- (6) 佐々木毅理事より担当委員会報告があった
- 1) 医療業務委員会報告
 - ① 「国民のためのより良い病理診断に向けた行動指針 2019」が病理学会ホームページに掲載されているので御覧いただきたい。
 - ② 厚生労働省の検討会では、がんゲノム医療中核拠点病院のほかに、さらに約 30 病院をがんゲノム医療拠点病院として指定するということが内定している。本件については詳細が分かり次第、会員の皆様へ周知したい。
 - 2) 社会保険委員会報告
 - ① 2020 年度診療報酬改定要望を 4 月 22 日付で内保連へ提出した。
 - ② 診療報酬上の常勤医師の定義についての留意事項が説明された。
 - 3) 剖検・病理技術委員会報告（柴原純二委員長）
「診断病理」に掲載された剖検に関する総説を、希少がんのサーバーにアップロードして会員へ公開する企画や、「診断病理」への総説の連載を復活させる企画を現在進めている。
 - 4) 生涯教育委員会報告（鬼島宏委員長）
希少がんサーバーにアップロードしている生涯教育用の WSI コンテンツを、今後さらに増やして会員に活用していただく予定である。

- 5) 精度管理委員会報告 (増田しのぶ委員長)
- ① 病理医不在で作成された臨床検査振興協議会の「がん遺伝子パネル検査の品質・精度の確保に関する基本的考え方」について申し入れを行い、病理学会の意見が反映された改定版が作成された。
 - ② 病理関連のISOの整備の詳細が、5月に欧州で開催される国際委員会で決まるため、鶴山竜昭ゲノム病理診断検討委員に出席いただく予定である。
 - ③ 日本病理精度保証機構の2019年度の活動は、前期は染色サーベイ、後期はフォトサーベイを実施予定である。
- 6) デジタルパソロジー検討委員会 (森井英一委員長)
- 4月24日付で病理学会のホームページにデジタルパソロジーガイドラインを掲載したので、参考にされたい。
- (7) 小田義直副理事長より担当委員会報告があった。
- 1) 国際交流委員会報告
 - ① ヨーロッパ病理学会は、今後の交流について検討するため事務局長のAl Dieri氏を今総会に招聘した。2020年の総会から、第1回目のジョイントセッション開催の方向である。
 - ② 日英交流、日独交流は例年通りすすんでいる。
 - ③ 日中交流に関しては、例年のようにスポンサーードシンポジウムの形式で継続していく方向で、本日、中華病理学会理事長と話し合う予定である。
 - ④ 秋期特別総会のインターナショナルポスターセッションは、IAP日本支部から6か国を推薦していただき、国際交流委員会でも承認済である。
 - 2) ゲノム病理診断検討委員会及びゲノム病理組織検体取扱い規約委員会 (金井弥栄委員長) 報告
 - ① 5月末の国際会議で、ISO15189病理検査室の手順書策定について重要な取り決めが行われるため、鶴山委員を派遣し情報収集を行う。
 - ② アカデミアを通して遺伝子検査に関するガイドランスの共同策定を行うことを臨床検査医学学会に申し入れ、了承を得た。今後佐々木理事をワーキンググループ長として、検討を進めていく。
 - ③ ゲノム病理組織検体取扱い規約委員会では、「ゲノム研究用病理組織検体取扱い規程」と「ゲノム診療用病理組織検体取扱い規程」の合本版を羊土社から刊行した。現在、ゲノム病理標準化講習会のテキストとしても使用中である。
 - 3) ゲノム病理標準化委員会 (増田しのぶ委員長) 報告

昨年度2回、今年度は4回開催予定である。
 - 4) コンサルテーション委員会報告

希少がんの脳腫瘍、骨軟部腫瘍は現在コンサルタント側の負担で遺伝子解析を行っているため、依頼者から実費を徴収するシステムを構築中である。

 2. 第108回 (令和元年度) 総会の件

会長の坂元亨宇議長より、昨日より開催され、運営が順調である旨報告され、謝辞が述べられた。
 3. 第65回 (令和元年度) 秋期特別総会の件

会長の野口雅之学術評議員より令和元年11月7日 (木)～8日 (金)の2日間、つくば国際会議場にて開催されるとの報告があった。
 4. 第109回 (令和2年度) 総会の件

会長の小田義直副理事長より令和2年4月16日 (木)～18日 (土)の3日間、福岡国際会議場及び福岡サンパレスにて開催されるとの報告があった。演題募集は例年より1か月ほど前倒しの9月開始予定である。
 5. 第66回 (令和2年度) 秋期特別総会の件

会長の相村春彦学術評議員にかわり、新村和也会員より令和2年11月12日 (木)～13日 (金)の2日間、アクトシティ浜松にて開催されると報告があった。
 6. 第110回 (令和3年度) 総会の件

会長の北川昌伸理事長より令和2年4月22日～24日 (土)の3日間、京王プラザホテルにて開催されると報告があった。
3. 令和元年度認定施設、登録施設 (第42回) 審査について
- 認定施設、登録施設としての新規の申請は7件、16件 (うち1件は併願、うち2件は同じ施設が研修認定施設を2つ指定し2種類の書類を提出) でした。審査の結果、認定施設は6件、登録施設は12件が承認されました。認定及び登録期間は、それぞれ平成31年4月1日から令和3年3月31日までです。
- (1) 認定施設
- | 認定番号 | 施設名 |
|------|--|
| 3006 | 独立行政法人地域医療機能推進機構 (JCHO)
東京新宿メディカルセンター |
| 3063 | 公立昭和病院 |
| 3129 | 公益社団法人地域医療振興協会
東京ベイ・浦安市川医療センター |
| 5068 | 彦根市立病院 |
| 5080 | 国家公務員共済組合連合会大手前病院 |
| 5098 | 加古川中央市民病院 |

(2) 登録施設

登録番号	病院名
3081	利根中央病院
3120	公益社団法人山梨勤労者医療協会 甲府共立病院
3168	公立富岡病院
3169	越谷市立病院
3170	医療法人財団健和会 みさと健和病院
4128	成田記念病院
4147	津島市民病院
4148	岐阜県厚生農業協同組合連合会 岐阜・西濃医療センター揖斐厚生病院
6019	一般財団法人永頼会松山市民病院
6044	公立学校共済組合中国中央病院
7012	熊本赤十字病院
7119	医療法人 原三信病院

4. 病理学会研修施設年報（2019年分）の提出期間について

日本病理学会認定施設、登録施設は2019年(1月～12月)における病理学的業務の実績(施設年報)について、下記期間内にNCD上で登録をお願いします。

【年報の提出期間】

2020年2月3日(月)～3月2日(月) 23:59 まで

【注意】

- ・期間外に施設年報データの登録、提出を行う事は出来ません。
- ・年報データの提出が無い場合、施設更新はできませんのでご注意ください。
- ・登録方法のマニュアルはNCDホームページに掲載されております。

<http://www.ncd.or.jp/info/information/2899.html>

- ・研修施設の更新に当たられる施設(認定期間が2020年3月末日まで)には1月下旬より、更新書類を発送いたします。登録施設の書類は、親施設の責任者宛の発送となります。

5. 希少がん病理診断講習会(2/23・福岡)について

2020年2月23日(日)に福岡にて希少がん病理診断講習会(本部開催)を開催いたします。

【第4回希少がん病理診断講習会2019年度

(於 福岡・日本病理学会本部)】

日程: 2020年2月23日(日) 10時～16時

場所: 九州大学コラボステーション I

http://www.kyushu-u.ac.jp/f/35767/2019hospital_2.pdf (MAP34)

定員: 200名(先着順)

講師: 小田義直(骨軟部) 久岡正典(骨軟部)

小森隆司(脳腫瘍) 井上 健(小児)

申込: 病理学会希少がんHPにてオンライン受付中

<https://rarecancer.pathology.or.jp/enrol/index.php?id=80>

- ・参加費無料, フルカラーテキスト無料配布
- ・病理領域講習(専門医更新): 4単位
(4コマすべてを受講した方にのみ付与)
- ・病理専門医受験のための「病理診断に関する講習会」対象(4コマすべてを受講した方にのみ付与)

6. 第7回ゲノム病理標準化講習会(6/20・東京)について

第7回ゲノム病理標準化講習会を令和2年6月20日(土)に砂防会館で開催いたします。本講習会は、「ゲノム研究用・診療用病理組織検体取扱い規程(羊土社:日本病理学会策定)」をテキストとして、ゲノム研究・ゲノム医療における病理組織検体の取扱いおよび組織バンキング等に関する講習になります。

【開催概要】

日時: 令和2年6月20日(土) 9:30(受付開始9:00)から16:00(終了後, 受講修了証配布)

会場: 砂防会館別館1F「淀・信濃」

定員: 260名 先着順

参加申込: 4月21日(火) am 11:00～

WEBにて申し込み開始予定

詳細はホームページをご確認ください。

参照HP:

<http://pathology.or.jp/news/whats/genome-seminar20200620.html>

お知らせ

1. アベルマブ(遺伝子組換え)製剤の最適使用推進ガイドライン(腎細胞癌)の作成及び最適使用推進ガイドライン(メルケル細胞癌)の一部改正について(周知依頼)

厚生労働省医薬・生活衛生局より令和2年1月10日付で周知依頼がまいりましたので、お知らせいたします。

詳細は以下HPをご確認ください。

<https://www.mhlw.go.jp/hourei/doc/tsuchi/T191223I0050.pdf>

2. ペムブロリズマブ(遺伝子組換え)製剤の最適使用推進ガイドライン(腎細胞癌, 頭頸部癌)の作成及び最適使用推進ガイドライン(非小細胞癌, 悪性黒色腫, 古典的ホジキンリンパ腫, 尿路上皮癌及び高頻度マイクロサテライト不安定性(MSI-High)を有する固形癌)の一部改正について(周知依頼)

厚生労働省医薬・生活衛生局より令和元年12月20日付で周知依頼がまいりましたので、お知らせいたします。

詳細は以下HPをご確認ください。

<https://www.mhlw.go.jp/hourei/doc/tsuchi/T191223I0060.pdf>

3. 「情報通信機器（ICT）を利用した死亡診断等ガイドライン」に関する Q&A について（廃止）（周知依頼）

厚生労働省医政局より令和元年 12 月 27 日付で周知依頼が参りましたので、以下の通りお知らせいたします。

情報通信機器（ICT）を利用した死亡診断等ガイドライン（平成 29 年 9 月 12 日付医政発 0912 第 1 号）について解説をお示しした「「情報通信機器（ICT）を利用した死亡診断等ガイドライン」に関する Q&A」（平成 30 年 3 月 12 日付医政医発 0312 第 5 号）は、今般の見直しに伴い廃止いたします。

今後は、「「情報通信機器（ICT）を利用した死亡診断等ガイドライン」に関する Q&A の改訂について」（令和元年 12 月 27 日付厚生労働省医政局医事課事務連絡）においてお示しした解説をご参照下さい。

詳細は、厚生労働省医政局医事課企画法令（03-5253-1111（内線 2569）担当：水島氏）にお問い合わせください。